

竜丘時報

地番一一村丘竜野長
 兼行發
 男經田保久 兼行發
 會年青丘龍 所行發
 雄貞平下 者表代
 七三二町田飯縣野長
 所刷印社興猶 所刷印
 六三二町田飯縣野長
 雄義下松 人刷印

時報躍進の理想

有保證新聞としての第二を
 迎えて時報が或程度まで一
 般に其の存在を認められて來た
 事我々の喜びに堪へない處
 であります。如何にして村の
 新聞としての機能を確立する
 かは村民の理解を確立する
 ば發展の諸方策は講じられ
 ないと思ふのであります。幸ひ
 いて村民有識者各位の御聲
 援を叱咤によりて漸次時報の
 充實をはかり以て村の一機
 としての機能に資せん事を希
 ふものであります。

要するに時報は青年會の機
 紙ではなく村一般の時報であ
 ると信じて。故に使命は竜
 大なりと信ずる。現在村があ
 するの希望を約束すべき重大
 一トを切る時に於て時報は
 益々その重要性が加へられ任
 務に寄與し以て更生の要に致
 さんと思ふ。

年頭に

前島生

昭和聖代第九年の年頭を迎へ
 我が竜丘時報も有保證の年を

重なる事致して二年。一寸愚感
 を述べて見る。國家に國際危
 機、經濟思想難局の非常時を
 呼び、農村に經濟更生の聲八
 釜しき時。近來頼に綜合青年
 團自壤が叫ばれて來た。然し
 乍らその來る處は、眞に科學
 的の正義に立つ社會觀を持し
 曲の社會狀況是正の爲正々堂
 々、次代へ勇躍せんとする青
 年の輩出し來つたの外なら
 ない。こんな立派な考へを以
 つて綜合青年團解消の危機を
 自壤防止のため聲を大にして
 自國の時、我國は、國防生命線滿
 洲確保のため余儀なく聯盟離
 脱をして來つた。世界列國は
 今暫く、國力充實の爲め沈黙
 を守つてはゐるが、ある時期
 へ到來するならば、再び滿洲
 問題の返り咲を見、之に加へ
 て聯盟離脱實際化。南洋委任
 統治問題等愈々その熾烈さを
 増すであらう。之が一般の見
 解だ。その時期こそ一九三五
 年三月以降だ。
 年清、日露の大戦も我々若い
 青年の屍によつてあの偉大な
 功績を築き上げたのだ。今嚴

竜丘時報の利用に就いて

紫水

保證金問題で陰ながら憂慮し
 てゐた竜丘時報が本年も引續
 いて發行される事になつたの
 は村にとつての大きな喜びの
 一つである。先頃委員長から
 時報編輯について座談會を開
 くから是非出席してくれとの
 通知に接したが、前約の仕事
 の都合上出席する事が出来な
 かつた。有力者多数御出席の
 上十分審議された事と思ふが
 過去一ヶ月を通観して聊か私
 見を述べてみたいと思ふ。時
 報が村自治の向上發展、一村
 一家の風氣向上に直接間接に多
 大の關係を有する立場から時
 報に對する一般からの希望要
 求は随分多種多様なものであ

ない。村自治の正しき理解
 と明かなる認識によつて時
 報を通じて村の歴史的地位、
 地理的及文化的環境の發生的
 過程、因果關係に於ける其の
 出生成長發展に對する論評研
 究調査を根拠として現狀の批
 判、人と人、事業と人、人と人
 との離結關係、其れによつて
 必然的に起り來る自己反省、
 迷妄の清算、ゆきづまりの打
 開、新鋭なる進出、強固なる
 事業方針と堅實なる計劃の樹
 立に對する實踐と理論とが實
 質的に躍動する事が出来れば
 此の上なきことと思ふ。昨
 冬村より配布された經濟改善
 實行事項中教育改善及精神作
 興に關する施設の社會教育振
 興項目中に「時報の社會教育
 上重要な地位ヲ占ムルヲ以
 テ其ノ編輯ハ深重ナルヲ認
 ヲシテ其ノ利用ヲ重シクシテ
 シヤリトス。若シ時報が私的
 感情、私憤鬱散の機關に利用
 されたとしたら其れは大きな
 誤謬である。飽くまで村自治
 の向上發展、民力涵養の上に
 利用されねばならない。昨冬
 駄科區では、入營兵士の挨拶
 (隊ヨリノ書狀)によつて次の
 様な決議が出来た「入營兵士
 ノ挨拶(入營、年頭、寒暑伺)
 ノ書狀ニ止メ一般ハ時報ヲ利
 用スルコト」之れは入營兵士
 當初の事務多忙上と經濟的方
 面から考慮した事でも最も適當
 な方法だと思つた。昨秋村議
 の方々が視察された優良村の
 状況なども至急載せてほしい
 村治上に對する當局の希望所
 感、組合長校長農會長等の事
 處に於て望んでの感想、何
 々團體及個人の特殊研究、調
 査統計等もつと「澤山に掲
 載されてほしい、時報を我々
 のこしての内容充實、部員の
 激勵に今一層努めたならば其
 の効果も實に多大なるものあ
 る事を思ふ。知る事は愛する
 事への道である。己を知り家
 事を知り區を知り村を知り第
 一歩へは強き踏みしめる事に
 やがて協力共力村を愛する第
 二歩へは強き踏みしめる事に
 必要なりはしむるか。爾今時報
 をはなしては村青年會のみの機
 關紙として終らぬ事をなく
 我等の新聞、村の新聞として

雙及劍

益々其の眞價發揚に努力して
 ほしいと思ふ。
 非常時意識の昭和九年を迎
 えた。
 鐵は熱してゐる中に打つて
 とかや村の自力更生計劃も熱
 してゐる時打たなくては
 と云ふ意味に於ける松浦博
 士、小鹽兩氏の講演は有意義
 のもの
 害を知りつゝ飲むのが人間
 の劣弱性。

編輯のペンをこりて

昭和八年度時報回顧録

久保田 經男

時報が有保證新聞として村
 の新聞たる地歩を確立して二
 歳を迎へ、今こゝにその第一
 號刊行される事の出来るのは
 發行の直接當事者たる青年會
 としても亦村としても喜びに
 堪へない事である。更らに、
 昨年度一ヶ月を、おぼつか
 いなながらも編輯の仕事に當
 つて來た自分にとつて、本年
 倍加された力での輝かしい出
 発の開始の事の出来る時報を
 時播いた種が芽を切つて今
 さらさらの勢で成長したた
 のを見るの想がする。
 此の一年の輝かしい時報の
 成果を祈り期待しつゝ、私が
 昨年度に於いて學び得た、味
 え得た點を少く書きかして頂
 く。

保證金を積み立てる迄

すでに御承知の通り、時報
 としてどんな形のものでも發
 行しやうとするには先づ新聞
 紙法に依つて制定されてゐる
 保證金の積立てといふ手續を
 要する。前年迄警察から時報
 の注意を受けつゝ、無保證新聞
 の無力さを思ふさ少しでもし

だが計劃より實行と共にあ
 れ。
 不景氣は深刻化する。
 政府が内政會議の結果設け
 たる農村負擔調査會は何處へ
 行く。百姓は過重に苦しむ
 その苦しみがお役人に眞に
 分る時は何時のこと?
 昨今の青年の氣魄は頼によ
 し、氣拔ビールではなくなつ
 た。
 非常時の賜なり。

し、忙がしい日が続いて來た
 らに御許しを願つて置きます
 寄稿文三時報論説に既に今
 になつて感ずる事は、特に原
 稿に就いては、時報としての
 主張、意見(つまり時報を、
 青年會を代表する所の論説)
 一般からの投稿。寄稿との
 差についてはつきり知つて頂
 いて置く事の必要性でありま
 す。どんな新聞でも、御承知
 の如くその社の「社説」といふ
 ものが定められた所掲載さ
 れて居り、是かその新聞社の
 最も重要にして深重なる態度
 をとつて望まねばならない生
 命とする所であるが、大新聞
 となるに特別に論説部員とい
 ふ擔任があつて是に斯界の
 權威者數人を網羅して當つて
 ゐる様であるが、事は少く
 貧弱ながら、時報としても
 なつたが字詰は十三字で行數
 はほとんど同じ様につめたが
 段々八段もなつた。爲に常用
 の時報専門の原稿用紙も二字
 詰分不要となり編輯上もその
 間際は、少し變つてきたた
 のだ。然しながら活字の新た
 しいのと校正を正確にやつて
 頂けたのとで大變紙面の感が
 よくなり、更らに新聞社であ
 る爲、編輯上の(殊に三面の)
 方面の仕事の手が引けて、
 一息ついた。
 農繁期の六月、九月を休刊
 したのは残念なややはり職業
 としての個人の御意見は十分
 自由であると考えて、尊重し
 てゐた爲、その見解の相違か
 ら、時々問題(と云つてもさ
 したる事もなかつたが)が起
 きたのであつて今後は十分注
 意すべき事と思つてゐます。
 只讀まれる方々に是だけは切
 りはなして考へ、讀んで頂き
 たいと思ふのであります。論
 説と一般の論文寄稿との性質
 の異なるといふ事を

原稿材料集め

所謂「種ごり」に就て

新聞の發行に當つて一番苦心
 するものは原稿の多少やその性
 質の良否如何であり、原稿の
 良否如何は、こゝと斷
 定も下せない事であるが、つ
 まり掲載して讀まれるかどう
 か、亦讀んでそれだけの得る
 所があるか否かといふ事即ち
 價値の如何で、是は文の巧拙
 等でもなく最もそのつかみ所
 如何に多いと思ひます。三面
 記事ものでも何れも是は同じ
 事で、三面記事でも萬人注視
 く掲載する事が第一で、發行

一〇二面(續)

農會今後の方途に就て 竜丘村農會

農會法制定以來農會は其の指導精神とする「農業に關する福利増進を圖る」を目標とし...

徴兵に關する 願届についての注意 竜丘村役場

○寄留地で検査を受けた人は一月三十一日迄に寄留の兵隊官、市長、區長宛願書を差出す...

速成堆肥製造講習會開催 竜丘村農會

農業經營上に於て堆肥の必要なるは多言を要せぬ所である...

丘の圖書館便り

九年度計劃報告 一、開館計畫 二、圖書購置計畫...

新購圖書報告

昭和八年度第三回 新購圖書報告 聖旗は進む 國民詩集...

圖書館案内

圖書貸出 二月一日 拾六日 拾一日 紀元節前貸出...

竹林組合に就いて

本村に於ける竹林は相當面積を有して居りますが其の經營方針は各自まちまちにて何等統一無き造林、手入、伐採方法のみで何等進歩を認められないのであります...

標準依製造講習會開催 竜丘村農會

昭和七年以來長野縣穀物検査法布かれ茲に二星霜を経たり...

一頁より續く

度毎にその月々によつて非常な原稿がいふのがそつたりに下らないものを大きく出したり、いろいろになり...

「反響欄」の「廣告」

反響欄は設置の目的からして、揚正破邪の爲、不服や誤謬や、憤慨が出される...

配布に就て

時報の村内一般への配布に就いては日ト成可早く配ることを確立してゐない...

梅の電話 六番

水稻三要素肥料試驗成績

竜丘村農會

擔當者 桐林上北農家組合

本村に於ける三要素の天然供給が効力を知悉し、稲作に對する肥料配合の基礎を確立

せんが爲、本會は昭和四年度以來、水稻三要素肥料試驗地を設け、此處に初期の計劃たりし五年を経過せり、依つて之が成績の概要を公にし、本村稻作及其他肥料設計の資に供せんとす、本試驗施行に當りて擔當者各位の獻身的努力を賜はりしを茲に深く感謝す

肥料	反當	反當	反當	反當	反當
無肥區	二貫五〇〇匁	二貫五〇〇匁	二貫五〇〇匁	二貫五〇〇匁	二貫五〇〇匁
無磷區	二貫五〇〇匁	二貫五〇〇匁	二貫五〇〇匁	二貫五〇〇匁	二貫五〇〇匁
無氮區	二貫五〇〇匁	二貫五〇〇匁	二貫五〇〇匁	二貫五〇〇匁	二貫五〇〇匁
完全區	二貫五〇〇匁	二貫五〇〇匁	二貫五〇〇匁	二貫五〇〇匁	二貫五〇〇匁

摘要

- 1 硫酸は七割を基肥に、三割を追肥とし、過石は三割を基肥に、七割を追肥とす
- 2 追肥は各七月十八日前後に施用せり
- 3 硫酸加里及生石灰は全量を基肥とするも、他の肥料の施用よりも少くも數日前に施したり
- 4 全施肥量は三要素各二貫五〇〇匁の等量とせり
- 5 供試肥料は硫酸過石は其の含量二〇%、硫酸加里は四八%のものを使用せり

二、耕種概要

- 1 苗代 播種管理は普通栽培法による 但し苗は各區共發育均等なるものを用ひたり
- 2 供試品種 龜治
- 3 本田 (試驗地) 各區共全一區劃を繼續使用せり

整地 播種五日前に行ふ
 挿秧 六月十日前後を目標として行ふ
 管理 挿秧後十日頃中打實施、中打後七日頃第一回除草、第一回除草後十日目に第二回除草、其の後十日目に第三回除草

落水期 九月彼岸前後
 收穫調整 適期に刈取り乾燥の上、各區毎に收量調査をなす

昭和四年度水稻三要素肥料試驗地成績

一、試驗地作業概要

苗代整地終了 四月十六日
 全上播種 四月十八日
 落水 四月二十日
 刈取 五月廿五日
 九月十五日
 十月廿八日
 十一月二日

二、生育調査

第一表

第一區 無肥料區	第二區 無磷區	第三區 無氮區	第四區 完全區
出穂 七月廿七日	出穂 七月廿七日	出穂 七月廿七日	出穂 七月廿七日
出穂 八月十日	出穂 八月十日	出穂 八月十日	出穂 八月十日
出穂 八月廿一日	出穂 八月廿一日	出穂 八月廿一日	出穂 八月廿一日
出穂 九月一日	出穂 九月一日	出穂 九月一日	出穂 九月一日
出穂 九月廿一日	出穂 九月廿一日	出穂 九月廿一日	出穂 九月廿一日
出穂 十月一日	出穂 十月一日	出穂 十月一日	出穂 十月一日
出穂 十月廿一日	出穂 十月廿一日	出穂 十月廿一日	出穂 十月廿一日
出穂 十一月一日	出穂 十一月一日	出穂 十一月一日	出穂 十一月一日
出穂 十一月廿一日	出穂 十一月廿一日	出穂 十一月廿一日	出穂 十一月廿一日
出穂 十二月一日	出穂 十二月一日	出穂 十二月一日	出穂 十二月一日

第一區 無肥料區	第二區 無磷區	第三區 無氮區	第四區 完全區
反當穀重量	反當穀重量	反當穀重量	反當穀重量
反當容容量	反當容容量	反當容容量	反當容容量
反當穀重量	反當穀重量	反當穀重量	反當穀重量
反當容容量	反當容容量	反當容容量	反當容容量

四、收量調査

第一區 無肥料區
 第二區 無磷區
 第三區 無氮區
 第四區 完全區

昭和五年度

二、生育調査

第一表

第一區 無肥料區	第二區 無磷區	第三區 無氮區	第四區 完全區
出穂 七月廿七日	出穂 七月廿七日	出穂 七月廿七日	出穂 七月廿七日
出穂 八月十日	出穂 八月十日	出穂 八月十日	出穂 八月十日
出穂 八月廿一日	出穂 八月廿一日	出穂 八月廿一日	出穂 八月廿一日
出穂 九月一日	出穂 九月一日	出穂 九月一日	出穂 九月一日
出穂 九月廿一日	出穂 九月廿一日	出穂 九月廿一日	出穂 九月廿一日
出穂 十月一日	出穂 十月一日	出穂 十月一日	出穂 十月一日
出穂 十月廿一日	出穂 十月廿一日	出穂 十月廿一日	出穂 十月廿一日
出穂 十一月一日	出穂 十一月一日	出穂 十一月一日	出穂 十一月一日
出穂 十一月廿一日	出穂 十一月廿一日	出穂 十一月廿一日	出穂 十一月廿一日
出穂 十二月一日	出穂 十二月一日	出穂 十二月一日	出穂 十二月一日

四、收量調査

第一區 無肥料區
 第二區 無磷區
 第三區 無氮區
 第四區 完全區

昭和六年度

二、生育調査

第一表

第一區 無肥料區	第二區 無磷區	第三區 無氮區	第四區 完全區
出穂 七月廿七日	出穂 七月廿七日	出穂 七月廿七日	出穂 七月廿七日
出穂 八月十日	出穂 八月十日	出穂 八月十日	出穂 八月十日
出穂 八月廿一日	出穂 八月廿一日	出穂 八月廿一日	出穂 八月廿一日
出穂 九月一日	出穂 九月一日	出穂 九月一日	出穂 九月一日
出穂 九月廿一日	出穂 九月廿一日	出穂 九月廿一日	出穂 九月廿一日
出穂 十月一日	出穂 十月一日	出穂 十月一日	出穂 十月一日
出穂 十月廿一日	出穂 十月廿一日	出穂 十月廿一日	出穂 十月廿一日
出穂 十一月一日	出穂 十一月一日	出穂 十一月一日	出穂 十一月一日
出穂 十一月廿一日	出穂 十一月廿一日	出穂 十一月廿一日	出穂 十一月廿一日
出穂 十二月一日	出穂 十二月一日	出穂 十二月一日	出穂 十二月一日

四、收量調査

第一區 無肥料區
 第二區 無磷區
 第三區 無氮區
 第四區 完全區

昭和七年度

一、試驗地作業概要

苗代整地終了 四月十一日
 全上播種 四月十三日
 落水 四月十六日
 刈取 五月廿五日
 十月廿日
 十一月九日

二、生育調査

第一表

第一區 無肥料區	第二區 無磷區	第三區 無氮區	第四區 完全區
出穂 七月廿七日	出穂 七月廿七日	出穂 七月廿七日	出穂 七月廿七日
出穂 八月十日	出穂 八月十日	出穂 八月十日	出穂 八月十日
出穂 八月廿一日	出穂 八月廿一日	出穂 八月廿一日	出穂 八月廿一日
出穂 九月一日	出穂 九月一日	出穂 九月一日	出穂 九月一日
出穂 九月廿一日	出穂 九月廿一日	出穂 九月廿一日	出穂 九月廿一日
出穂 十月一日	出穂 十月一日	出穂 十月一日	出穂 十月一日
出穂 十月廿一日	出穂 十月廿一日	出穂 十月廿一日	出穂 十月廿一日
出穂 十一月一日	出穂 十一月一日	出穂 十一月一日	出穂 十一月一日
出穂 十一月廿一日	出穂 十一月廿一日	出穂 十一月廿一日	出穂 十一月廿一日
出穂 十二月一日	出穂 十二月一日	出穂 十二月一日	出穂 十二月一日

(紙面の都合に依り以下次號へ)

「みずの戯言」 過去昭和八年の回顧

それは余りにも経済的市況の
 壓迫下に蒼ざめた死のブロー
 イルであつたと云ひ得る。
 總ての経済理論もあらゆる經
 済實踐も苛酷なる市況の激浪
 には殆んど無抵抗的な喘ぎに
 すぎなかつた。しかし物質的
 に精神的にひしがれた吾等
 はあつたが生活への執着生活
 の憧憬は非常的「生活の再
 再認識」の必要を意識した
 生きたるが爲めあがきは生きた
 爲のより惨めな舞踏であつた
 明日のパンを得る機みより今
 日のパンを得る手段にあぐさ
 せざるを得なかつた。
 そして余儀ない生活の敗者と
 しての過程が深刻に吾等の今
 日を踏んで来た。
 親父は立場の變つた「生活再
 認識」の犠牲に酒の誘惑から
 おさらばをした。おふくらは
 洗ひざれた布子で新しい年を
 迎へるに泣顔だつた。青年は
 躍る血潮の中にぬぐひ得ざる
 心のギコチなさを悲しんだ。
 そして十年前の青年とこゝに
 三年の青年とを對照して充
 分の檢討をしたらしかつた。
 かくして老も若きも他力本願

協力と善事斷行

中田 照枝

舊臘二十三日午前六時三十
 九分。九千萬の臣民が等しく
 お待ち申し上げて居りました
 かけまくも長き日嗣の皇子が
 御降誕あらせられ、茲に重
 る誠にお芽出度い新年を迎
 ることが出来まして御同慶に
 存じます。
 昭和九年こそ。今年こそ
 古き穀を脱し勇氣を振ひ熱意
 を以つて、善事斷行を致した
 と思ひます。
 我が日本帝國の危険期！一九
 三五年に迫りつゝある現今、
 今こそ本當に非常の秋です。
 諸外國特にソヴェットロシア
 との情勢只ならぬものがあり
 何時!!どの様な大事件が勃發
 するか解りません。一朝事あ
 る場合私達若き女性には、狼狽
 せぬ心構えが必要であり、又

も、さて實行しやうとなると
 おじけついたり入々の批評を
 恐れたりして結局、まあ従來
 の様に置かうといふ様な
 結果に終つてしまひます。今
 年からは是非出來得る限り善
 事は何事でも實行しませう
 何事も實行するには大なる勇
 氣と相等の努力が必要で之を
 覺悟の上で成さねばなりません。
 又、世評を恐るゝ切角實
 踐しなかつた事を途中で止め
 ない。強固な意志を以つて
 實行せねばなりません。
 個人生活の上にも協力の必
 要なことは素よりですが處女
 會の如き團體として事業をな
 す上には協力の第一主義
 です。會員の銘々を覚醒し何
 事なすにも協力してなさね

健全なる精神は

健全なる身体から

處女會体育部長 今村房子

雪中に赤き南天が其の弱々
 しき莖に堪へ兼ねる様の重た
 げな雪をもぢつと堪へ忍んで
 さへへてゐる姿は實に美しく
 人の目を引く。この姿を見る
 につけ此の多事多難なる現代
 日本を背負つて立つ女性にも
 こうした心持が無くてはなら
 ぬ可なり。肩にギツシりと重
 荷を背負つて尚快活に朗らか
 に一歩々々強く踏みしめて行
 つてこそ三四年の女性である
 併し此れは健康なる体と健康

昭和九年の覺悟

下平 米子

多事多端の昭和九歳の春を

迎へまして、内に外に考へま
 す。静思黙想の殻を出で
 て人生の街頭に雄々しく疲弊
 困憊せる現農村の黒土に立ち
 踏みしめて皇道日本を背負ひ
 切る所の新女性としての理想
 の下に先づ處女會の本年
 度の發展を祈るものでありま
 す。
 未熟なる身を顧みず茲に
 處女會の司の責任を負
 ふことは誠に大任を完全遂行
 し得るか否かと云ふことに就

余年より良く成長し、課せら
 れたる使命を遂げつゝ來まし
 た處女會をより以上に成長さ
 せ切迫せる此の郷土の爲に働
 くことは私共全會員の爲すべ
 き義務であると信じます。此
 の義務を責任とを常に忘れず
 (一、一四)

科學走馬燈

優生學

斯くして芽を出した科學が當
 時多くの人の誤解を招き高遠
 なる理想は望まれなかつた。
 即ち科學の目的は簡単に述べ
 れば我々人類が自然の法則を
 發見して内外共に利用して理
 想に世人を導くこと云ふこと
 有るのだらう。大戰當時は
 單に武力の方面にのみ科學の
 力を向けて居た。彼の歐洲
 大戰における科學文明が平和
 における人類の幸福を増進さ
 せて來たと同時に一方戰闘に
 利用して余りに悲惨なるもの
 を見せた爲に於ては是によつ
 て科學を呪ふ可きものもと言
 ひ科學は人を殺すか言ふ。
 科學は偶然に存在するもので
 なくして人類の生み出したる
 以上は教育運用方法如何に
 依つては害もなし又益もなし
 譯す。即ち運轉手の技能如何
 に依つては左右される是等科學
 の粹を理想に組成して改善
 された生活状態が科學文明と
 なるのではなからうか。是に
 相對して精神文明なるものが
 あり獸と同等な人間愛の生活
 である。此の精神文明と科學
 文明とが一體となつて歩を合
 はせて進んだならば戰爭殺人
 強盜争議等は跡をたつ事は明
 かにかがはれる。つまるところ
 科學の理想は戰爭と云ふ字を
 人類社會から除去すると共に
 日常生活をより以上に幸福に
 導く事は勿論である。
 或る人は幸福云ふ事は不
 幸が消除すれば最早幸福は
 ないと言ふことを聞く。而し
 それでも良い自分達が今考へ
 て見れば最も幸福だと思ふ域に
 進めば最初不幸を與へるも
 のは疾病であつて病原菌に依
 るもの不衛生に基づくもの先

優生學の構成

優生學

優生學とはギリシヤ語で「よ
 く生れる」と云ふ事から出た
 言葉だらうである。主唱者ガ
 ルトン氏の提議に依れば後代
 の人類の心身を改良し得べき
 社會的方法を研究する學問だ
 と云ふ事である。そこで最初
 起る問題は人間の素質を研究
 する事によつて果して是が改
 良し得るか否かと云ふ事であ
 る。今假りに人間の常識的推定を
 基として人間の幸福を目的と
 した優生學を見るならば現在
 の社會に於て行はれてゐる事
 情を參照して考へる時、容易
 に樂觀を許さぬものがある。
 つまり現在の人間の幸福を犠
 牲にしても良いと云ふならば
 いざ知らず人間の幸福を思ふ
 以上現代の幸福を圖りつゝ將
 來の幸福を圖らねばならぬ譯
 になる。斯くの如く一長ある
 ば一短あつて世の中の萬事が
 皆同じ様な經路をもつてゐる

新春を迎へて

山田 藤江

私達は小學生時代より幾度か

希望多い昭和九年の新春を迎
 へて私共の進むべき道を凝視
 する時各自或は團體の修養に
 互ひ自分々の計劃の下に有
 意義な昭和九年を送りたいと
 思ひます。
 「言は易く行は難し」と
 殊に言はれど云つて私共
 意志薄弱のものさへされて
 る位です。
 私達は固く、お互ひに計劃を
 立つてそれに誓ひ實行する事
 に努めませう。

事は何を得ない。しかし我
 々人間と云ふ一つの形狀に於
 て統制ある社會へ不具とし
 取扱はれる様な哀れな人を生
 み出す事は自然といへば自然
 にはあるもの、若し人類の手
 で救ひ出す事の出來得るもの
 ならば是が對策を講ずる事が
 即ち人類愛の現はれでなければ
 ならないと思ふ。先づ優生
 學の實際的方法について大体
 を記して參考にしてみたいと思
 ふ。名稱數字等は相當に確實
 性をもつてゐることをお知ら
 せします。

○ × × ○ × ×

は先ず禁酒から 松浦先生の 禁酒講演會

一月拾四日午後二時小學校記念館に於て日本禁酒同盟理事松浦有志太郎醫學博士並に同盟盟主小藤完治氏の講演會は村當局主催各種団体後援にて開催せられた。雪袴姿の松浦博士は七十歳にも係らず現下の時局に際し憂國の志情禁酒得ず旺盛なる元氣を以て禁酒粗食生活の自然生活、安養生の眞理を語り、小藤氏は一時間半に亘つて禁酒運動の持つ、社會的意義を説いて熱辯を奮ひ聴衆に多大な感銘を與へた。

各區々會議員決る 舊冬廿五日の選舉で

今期區會を背負ふ議員の選舉は舊年拾二月廿五日各區公會堂及び役場に於て舉行開票の結果左の諸氏が當選した。

◎時又區會議員名
今村 助一 山田正四郎
下田 千俊 伊原 宇一
林 主計 河原 參也
山田 馬一 河井 精一
◎長野原區會議員名
今村助一 桐生 幸一
小林 善 小林 鎌吉
前澤 玉吉 今村 文雄
下井田義男 下井田龜一

◎秋科區會議員並に役員
區長 熊谷 惣一
區代理 代田 半七
並ニ會計 水 関島 倉吉
記 録 木下 茂男
小作整理係 關島 彌吉
矢澤 一郎 下平 貞雄
下平 初造 久保田宏二

◎上川路區會議員名
清水 眞吾 森 省 三
増田春一郎 清水元治郎
長沼金太郎 増田 彌平

日本青年協會後援 青年講習會について

現在の時局と吾々の農村は、如何なる青年を要求して居るか。「口」を開けば誰人も「非常時」と云ふ。されど青年に於て現下の時局に對應した理想信を有する「腹」と、國家社會に對する認識の上に欠くるものなきと云ふ事は出來ない。當講習會は日本青年協會後援のもとに開催せんとするものであるが、先ず講習生は期間中合宿して指導者と共に寢食を同じうして、然かも著名なる名士講師の講義を聴き、團體的規律訓練に依つて青年として、心身の錬磨を意圖し、識を得ずべしを目的とした。

軍人會軍服 調製計畫

非常時に際し帝國内外の情勢は日に多事多難を加へ、千九百三十五年の危機線を目睫の間に控へて今や前古未嘗有の非常時局に際して、吾が竜丘村軍人分會は、國防の重責に任じ、國民の中堅たる大使命遂行の爲め斷然たる決意を以て、軍服調製を期し、秋と、全會員軍服調製を期し、秋と、全會員軍服を保持し其の本分に奮起するに共々、一致協力進んで國策の貫徹に、目前に迫れる危険線突破に邁進し、日本帝國の尊嚴と、仁愛勇武の國民性の發揮に努めんと計畫を樹て、ゐる、費用捻出の方

郷土誌の研究に 桐林青年會着手

桐林青年會調査部にては郷土誌の研究を目下行ふ事に決し其の第一歩として美術文學、工藝方面の資料蒐集を企圖し

要項
一、期日 一月廿七日朝より
一月廿九日午後一時頃迄
會期は三泊四日の豫定
一、會場は未定
一、講師並に講習會指導者
日本青年協會より派遣の豫定、講師は種目を「軍事一般」「農藝方面」「思想問題」にて各當面の權威者來村の豫定
一、會費 白米二升、寢具持參の事、其の他諸費若干
一、人員 四拾名以内
一、毎日の日程は未定 以上
他村よりの聴講希望者あるに就き本村青年諸君にても受講多數を切望す。
主催 青年會教育部
後援 日本青年協會

謹賀新年

法は、分會に於てはあらゆる會員其の他一般特志家の理解充實を節節し、一般會員名譽ある御後援に依頼し、更に不遜かに軍營より昭和第九の新春を祝し、村民各位の御多幸を祈る。

關東軍駐兵第十四聯隊第一中隊第二班
伊藤 茂一
池田 忠一
新東京南嶺高射砲第三大隊第二中隊
原 福雄
東京赤坂近歩三 二ノ二
滿派軍第四師團步五十第十一中隊
土屋 衛次
中平 久良雄
朝鮮南嶺高射砲院兵舎
長 沼 保治
新東京南嶺高射砲第二大隊二ノ四
北海道旭川歩兵第六聯隊機關銃隊第六班
牧 内 壽美
東京世田谷近砲第四中隊
牧 和 一
横須賀海軍病院 曉
小島 伍三
大日本第十驅逐隊 曉
下平 富夫
北滿呼蘭步五十第五中隊輕機班
森 哲夫

編纂部 座談會開催

村民の援助を希ふものである
村民の援助を希ふものである
足の方は村費補助に依つて目的を達成せむものと、大方の諸賢の御同情ある御清鑑と御助力とを懇願してゐる

東奔西走してゐる。
過去の吾人の祖先の生活を探究し然して現在の吾々の人生を思はしむ實に有意義の企てと云わねばならぬ。
面白い、味のある、仕事である青年會の仕事として、偉大なる仕事と云わねばならぬ

出初式舉行

縣那功勞及び
啓勤々績者表彰
恒例による本村消防組出初式は八日前九時より小學校々庭に於て舉行せられた。訓練をなす午後一時より飯田署から加々美署長、竹松巡査部長ら加々美署長、竹松巡査部長ら臨檢された。尚署長より縣及那功勞賞の傳達式あり組頭より啓勤者及勤績者の表彰あり終つて安會にうつり五時散會にて各縣功勞受賞者は左の通りである

第一部 木下邦雄、中平逸藏
第二部 吉澤俊、小林竹一
第三部 高橋重雄
第四部 久保田芳一
那功勞賞
第一部 下平俊夫
第二部 櫻井茂
第三部 金子羊一、増田好雄
第四部 下平茂、林一俊
二十ヶ年啓勤者 原田喜男
二十ヶ年啓勤者 岡島武一、今村代藏、市瀬今男、林信雄、中島芳治
十五ヶ年啓勤者 佐々木新六、木下廣司、牧内正吉、小室正春、林泰雄、高島兼藏、中島清志
十ヶ年啓勤者 原薫、木下邦雄、牧島廣男、關島廣三、下平逸、下田千俊、木下郷雄、牧内菊一、桐生實、原俊治、中島一男

希望圖書募集

二月五日
締切
方法
書籍名、著者
定價、發行所明記
その他
内容、概要及び應募者氏名記入
募集場所は、郷土會館、青年會、郵便局の図書部、郷土會館の図書部
募集期間は、二月五日迄

五ヶ年啓勤者 佐々木保治、吉川太一、大平廣司、熊谷四郎、下平義信、吉川二郎、伊原芳吉、小林計美、小林玄吾、今村代二郎、宮澤正

若木屋菓子店

和洋菓子一般
□特製うぐひす、さくら餅が始まりました
時又港
當日は多數御來店を賜り厚く御禮申上ます、混雑の際とて不行届の點は御詫び申上ます、尚今後共御引立の程を御願申上ます

新文具店

況盛の賣初謝
安い 美味い 早い
時又 御出の節はお寄り下さい
時又 クロバ一食堂
電話 二〇番

指壓治療奉仕

生活改善の第一歩は健康にあり、健康は指壓治療による四月末日迄奉仕的に一回三十銭にて治療致します。但出張は従前通り、中風症御心配の方は血脈を無料で見ます。

特別に生活困難の御方には無料で治療致します

松枝指壓治療所
電話 四十七番

經濟改善簿を見て

壽生

國防的に經濟的に思想的に國... 先づ村經濟の改善からと昨年... 責任者等迄も招集して作り上... けたる經濟改善全書喜ばしき... 限りである。

或る女工の手記

志

晝休みに日向ぼっこをして... 居ると、ルミちゃんを駈けて... 来て私の側へ腰かけた。

五年、六年、漸くにして工... 場生活者の心理が解つて来た... のであつた。否、もつと廣い... 意味で言つたならば、世の中... と云ふものが解つて来たのか...

公告

青年會調査部に於いて一月の... 事業として、正月一ヶ月中の... 家庭消費調査を致します故そ... の節は、御手数ながらお願申... 上ます

歳末同情週間に於ける

二つの美しい話

糸價の暴落、深刻極みなき農... 村不況を時の流れに乗せて刻... 々々進み行く昨冬十二月二十... 日午後一時から本村歳末同情...

反響欄

警告

誰か歌ふのが聞えて来る。... ああ、桃色のヴェールに包ま... れるルミちゃんの上にも、...

近來青年會の不振は實に各方... 面から叫ばれてゐるが、この... 國民擧げての非常の時、安閑...

九年度に於ける

妊婦

役場内第二會議室に於いて、... 妊産婦無料診断所が開設され... ました。一月十三日には九年...

久米屋書店 市瀬下駄店 藤屋菓子店 吉田屋胖物店 菅原新聞店 富士松 吉川屋洋品店